

守れ！ 9条

こんにちは ! 日本共産党の

大名みえ子です

ご相談はお気軽にお寄せください

2006年10月5日

〒319-1112

東海村村松 2401-2

oonatoukai@yahoo.co.jp

電話・fax 029-284-0761



住民参加の避難訓練としては初めての自家用車での避難訓練が、一部交通規制がしかれ、警察誘導のもとおこなわれました。

何のための国民保護訓練か？

全国で3番目、県内初の国民保護訓練が9月29日、東海村を中心におこなわれました。

「東海第二原発が国籍不明のテロ組織に攻撃されたことを想定しての訓練」との事です。

原発施設の建設では、そもそもテロ攻撃を想定していません。テロ攻撃を想定するのであれば、原発施設の見直し等を最優先におこなうべきではないでしょうか。

何れにせよ今回の拙速な訓練は、住民への国民保護法の押しつけにもとづく、住民統率訓練に他なりません。

ＪＣＯ臨界事故を忘れない
原子力事故をくり返させない
2006年9・30 茨城集会

ＪＣＯ臨界事故から7年目の9月30日、東海文化センターで、「ＪＣＯ臨界事故を忘れない、原子力事故をくり返させない9・30 茨城集会」が開かれました。

今年はチェルノブイリ事故から20年目にもあたり、「チェルノブイリ調査団」の報告も受けて、行政や事業所が事故の教訓に謙虚に学ぶ姿勢と、万全な対策をとる事がいかに重要か、改めて学びました。

集会は、故大内久さん、故篠原理人さんに哀悼の黙祷を捧げてから始まりました。オープニングでは、「里の秋」「波浮の港」「ふるさと」の3曲がハーモニカの透きとおる音色で奏でられました。

続いて第1回集会開催時につくられた「ＪＣＯ事故を忘れない」の詩が朗読されましたが、事故直後、私たちが味わった「見えない恐怖に対する計り知れない不安」が蘇りました。

「故大内久さんの83日間の治療の記録」も改めて辿りましたが、大内さんとそのご家族、そして医療団の死闘は、被ばくの恐ろしさと、侮ってはいけない原子力の危険性をまざまざと再認識させてくれました。

9月議会 一般質問のご報告、最終回です

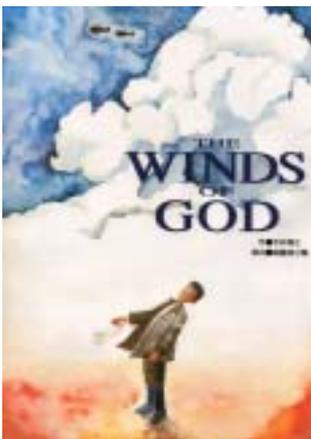
村民生活に関わる7項目について質す

質問7（大名） 村立東海病院の患者さんの状況について

村立民営病院として4ヶ月が過ぎた。旧病院からの利用者は、民営化への不安と、新しい病院建屋と職員体制に戸惑いが多かったようだ。一方で、建て替えをきっかけに転院された方もいる。患者さんの声として「予約制なのに待たされる」「全体に要する時間が短くなるかと思ったがそうでもない」「先生が変わったら治療方針が変わってびっくりした」など聞かれた。

強引に民営化を進めたわけだが、民営化のメリットとうたった事柄が、真のメリットとなるよう責任をもって努力してほしい。この間の外来・入院患者数、地域別受診者数、主な検査件数と患者の声の対応について問う。また旧病院から継続している患者データが十分に引き継がれていないのではないかと気になる点があるが、どのようになっているか。

福祉部長 患者数などについては資料のとおり。外来患者数は順調に推移してきているが、入院患者数が8月末現在41名で病床数の50%にとどまっていることから、80%程度まで引きあげることをめざしたい。病院に「ご意見箱」を設置しているので、患者さんの声は病院から報告を受けており、改善が必要なものは、病院に指示をしている。これまでの意見では、待ち時間に関するもの 運用に関するもの 接遇マナーに関するもの 給食に関するもの 設備関係に関するもの お礼に関するもの等で28件。ご意見は待合ホールに回答文と一緒に掲示している。データの引き継ぎは、退職する医師が今年1月から3月までの間、診療記録を作成し引き継ぎを図ったが充分ではなかった。



10月1日、東海文化センターで、劇団「シアター青芸」による演劇公演「THE WINDS OF GOD」(作 今井雅之)を観劇しました。

2006年に生きる青年が終戦間際の1945年、特攻部隊にタイムスリップし、出撃する青年らの複雑な心境を描きながら、戦争とは？平和とは？を考える、笑いと涙で舞台に釘付けになる作品でした。